

会長挨拶

「広島県社会福祉法人経営青年会」（以下、青年会）は今年26年目を迎えました。

「じだいをつくる、じだいをつなぐ、共に…」をスローガンに掲げ、会員の資質向上と社会福祉法人の経営を担う人材の育成、そして、会員同士がつながる活動を展開しております。

これはひとえに、青年会の活動に対する会員の皆様のご理解とご賛同、会員所属法人様のご理解とご配慮の賜物と感謝の気持ちでいっぱいです。おかげさまで今では68名（令和6年10月現在）の入会をいただいております。

昨年度（令和5年度）、全国社会福祉法人経営青年会の「全国大会」を広島で開催いたしました。日本列島各地から380名以上の参加をいただき、「全国大会」過去最多人数となりました。このような機会にたくさんの同志とつながることができました。

特筆すべきは、この大会を計画・準備・実行と会員をはじめ、青年会に関わる方々が一丸となり盛況のうちに終えたことです。これは青年会の「最大の成果」と受け止めます。

青年会は、社会福祉法人に属するすべての職員・スタッフが参加できる「つながる場」です。会員の皆様には引き続き青年会の活動にご尽力いただきたくお願い申し上げるとともに、御法人におかれましては、青年会に入会されていない未来を担う職員・スタッフの方への資質向上を促す一端の場としてご一考いただけすると幸いです。

次代を担う人材として共に育っていきたいと思っております。

広島県社会福祉法人経営青年会
会長 上栗健登

経営青年会とは

広島県下の社会福祉法人に所属する若手職員の資質向上、経営に関する研究及び研修並びに会員相互の交流を図るための事業を行うことを目的とし、広島県社会福祉法人経営者協議会、全国社会福祉法人経営青年会との連携のもと1998年より各種事業を行っています。

入会メリット

ICT、DXの研究や導入はなくてはならない物になっており、これを活用するか否かでは大きな違いがあり、生産性も上がることはないと考えます。それだけに福祉の専門性が重要であり『AI』ではなく『人』でなければならないホスピタリティの精神こそが我々の職業の大きなメリットではないかと思います。研修ではICT、DXだけでなく、従業員満足度や双方の幸福感を高めるなど人材育成についても深く研究や研修に取り組み、学ぶことができます。

【会員コメント】

上栗会長の『つながる場』という言葉が印象深く残っています。「第26回 社会福祉法人経営青年会全国大会」での出会いは、福祉への熱い想いを共有できる仲間との貴重な機会となりました。経営青年会の一員として、専門性を高め、共に社会福祉の発展に貢献していきたいです。

正仁会 看護小規模多機能ホーム なごみの郷 廣木佑介

【卒会者コメント】

「青年経営者会」は、名前が堅い、新入会者が経営者でなければダメのように感じられる、と『経営青年会』へと名称変更した。当時5人の会員数、今は60人超と聞く。卒会後、本会のネットワークを部下にも享受してもらうため承継した。不寛容な時代、仕事に追われるスタッフに、公然と息抜きできる場面も必要だ。息抜きと思えても、より強固にネットワークが絡み、次代の強みとなる。こうして連綿と歴史を刻み自法人も強化される。

正仁会 特別養護老人ホーム なごみの郷 施設長 松林克典

【人材育成委員会の紹介】

研修委員会は、青年役職員の資質向上と経営に関する研究、会員相互の交流等を図り、もって広島県社会福祉事業の一層の発展を目的としています。目標は、青年役職員が自信を持って地域社会に貢献できるようになることです。質の高い研修を通じて、自身の成長だけでなく、各法人全体の業務効率やサービスの質の向上も目指しています。

1. 研修プログラムの企画・運営

幅広いテーマを網羅した研修プログラムを企画・実施しています。専門家を招いた講義や実務経験者によるケーススタディなど、多彩なアプローチで学びを提供します。



2. ネットワーキングの促進

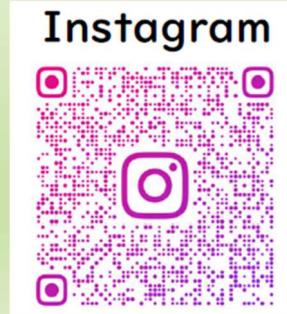
研修を通じて、同じ目標を持つ仲間とのネットワーキングを促進し、情報交換や相互支援の場を提供しています。これにより、業界全体の知識と経験の共有が進み、相互成長を目指しています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。共に学び、成長し、社会福祉の未来を築いていきましょう。

【総務・広報委員会の紹介】

総務広報委員会では経営青年会の活動状況や会員の紹介など、経営青年会をより多くの方に知っていただくための活動を行っています。

具体的にはホームページ・インスタグラムの更新や広報誌の作成をさせていただいてます。月に1回ミーティングを行い、作戦を考えたり情報共有を行ったりしています。また、総会の際は総務広報委員は運営にも携わっています。たくさんの方と関わることができ非常に有意義な活動をさせていただいている。



経営青年会 令和6年度 組織図



【福祉テクノロジー・ICT機器導入の手引き】

令和6年2月にICT（情報通信技術）をテーマに研修を実施しました。この研修では、参加者が最新のICT機器を実際に体験し、それぞれの施設での導入状況を共有しました。

特に、職員の負担軽減を図るシステムの活用が注目され、研修後のアンケート結果からは、ICTが単なる人員不足の補完策ではなく、業務の効率化と支援の質を向上させるための重要な手段であることを改めて意識する必要があると感じた参加者が多かったことが分かりました。また、他施設の取り組みや活用状況を知ることで、自施設の運営において改善すべき点や、新たに取り入れるべきアイデアを得ることができたという声も多く聞かれました。このように、研修は参加者にとって非常に有意義な機会となり、ICT導入に対するきっかけになったのではと思います。

今後も人材育成委員会は現場で直面する課題に対応し、より良い支援を提供するための知識と技術を学ぶ機会を提供していく予定です。



【地域共生社会の実現に向けた地域連携とネットワーキング】

令和6年9月には尾道市瀬戸田町の社会福祉法人新生福祉会が運営するボナプール楽生苑にて、青年会初の宿泊付き2日間研修を行いました。海の見える最高のロケーションの中、30名が集まり、1日目は広島県や尾道市の行政担当者様による講演、ボナプール楽生苑の施設見学、情報交換会が行われ、2日目にはワールドカフェ形式のグループワークが行われました。非常に充実した内容となり、参加者はそれぞれの地域共生の取組み状況を共有し、意見交換を通じて、異なる事業の視点を組み合わせることができ、取組みのヒントがたくさん得られました。

また、2日目には朝5時から早朝ランニングで汗を流し、美しい日の出を拝んだ方もおり、非日常の環境だからこそできる交流も図ることができました。

今回、研修委員長を中心に8回ものリモート会議を重ね、5人のメンバーがそれぞれの役割を果たしつつ、進捗状況の確認や課題の抽出を行いながら進めていきました。このプロセスは日常業務の進め方にも非常に参考になる経験でした。このような貴重な経験ができるのも青年会に所属する意義であり、今後はこの経験を日常業務にも積極的に活かしていきたいと思っています。





令和6年度 新入会員 14名紹介



広島県社会福祉法人経営青年会では、50歳以下の福祉人仲間を募集しています。

興味のある方、ご法人様からのお問合せをお待ちしております。♪

編集・製作・発行：広島県社会福祉法人経営青年会 総務広報委員会

